

平成 30 年度在外研修者一覧

○経済学部准教授

派遣先：フランス国 ランス シャンパーニュ＝アルデンヌ大学

研究目的：フランスにおける社会連帯経済への地域経済論的アプローチの探究、サプライチェーンの短縮化の経済効果に関する方法論の研究、フランスにおける地域経済、中小企業に関する政策の研究

派遣期間：平成 30 年 9 月 1 日～令和元年 8 月 30 日

現地活動：ランス大学のラボラトリーREGARDS に客員研究員として在籍した。社会連帯経済やサプライチェーンの短縮化、バイオエコノミーに関する議論を学ぶとともに、主要文献を収集した。そのほか、欧州で研究蓄積が進んでいるマルチステークホルダープロセスに関する議論（多様な利害関係者がいる中で、いかにして解決の糸口を見出すかという議論）に出会い、REGARDS に在籍する研究者とともに国際学会（EGOS）で報告した。

○法学部教授

派遣先：スウェーデン王国 ウプサラ大学

研究目的：生殖補助医療技術の発展に伴う、法的親子関係についてスウェーデンの法状況を研究し、日本法への示唆を得ること

派遣期間：平成 31 年 3 月 1 日～令和 2 年 3 月 1 日

現地活動：スウェーデンの生殖補助医療に係る最新の法改正状況や関連判例を調査した。具体的には、大学図書館や王立図書館等利用して、文献収集を行ったほか、関連するスウェーデン生命倫理委員会のセミナーにも参加した。大学、行政機関等の現地研究者との交流を推進し、インタビュー調査も行った。また、日本から現地に訪れる研究者と現地研究者の橋渡しを行い、調査先の調整を行う等、日本における法律研究の促進に尽力した。

○人文学部教授

派遣先：フランス国 パリ第一大学（パンテオン＝ソルボンヌ）

研究目的：フランスにおける映画美学研究

派遣期間：平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

現地活動：フランスの哲学者アンリ・ベルクソンおよび同国の映画評論家アンドレ・バザンを中心に、現地において彼らにまつわる資料蒐集しながら、フランス映画美学研究を行った。バザンが頻繁に用いた“esthétique”という言葉に着目し、この語がフランスの哲学者で演劇美学者でもあるアンリ・グイエの用法を引き継ぐものであることから、文脈によってはバザンの言う“esthétique”は芸術における「形式」を意味すると捉えるべきであることを明らかにした。

○経営学部教授

派遣先：オーストラリア国 グリフィス大学

研究目的：「拡張型ファジィアウトランキング理論を導入した意思決定支援システムの構築」に関する研究

派遣期間：平成 30 年 10 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

現地活動：グリフィス大学で開催された研究報告会・講習会等に参加し、知識の更新・共有を図った。共同研究者の PBL (Project-Based Learning) 型の授業実体験し、教授法を学習した。また、研究成果を元に論文の執筆を行った。

○工学部教授

派遣先：フランス国 トゥールーズ第三大学

研究目的：あいまい環境下での情報処理についての研究（ファジィ理論を用いた意思決定法）

派遣期間：平成 30 年 4 月 2 日～平成 30 年 9 月 29 日

現地活動：IRIT の ADRIA (Argumentation、 Decision、 Raisonnement、 Incertitude et Apprentissage) チームに在籍し、共同研究者とあいまい環境下での質的データの意思決定に関する共同研究を実施し、質的データの階層分析モデルの定式化を発展させた。